



さわやか



人間ドックで、「要精検」と出たら！～診断と治療～

「どこか気になる！」「自分の健康状態はどうか！」
 こんな不安から、我々は人間ドックを受診します。そして、結果が気になり不安になります。結果が、「要精検」ときたときには、それはピークとなります。

さて、QUTテストを、学級集団の健康診断と考えてみましょう。検査は、いつ頃がよいのでしょうか？ また、結果が届いたらどうしたらよいのでしょうか。

QUTテストの結果を見て、それで終わりというのでは、学級集団の何も変わりません。要精検（不満足群や要支援群に居る子どもや、荒れ始めの学級）の診断を受けたら治療が不可欠です。



診断結果に基づいた治療をした学級。改善の目標と手立てを挙げている。

意図的で計画的に行わなければ、教育力を持った学級集団は育ちません！



6年1組のスマイルタイム

本校の目玉である「スマイルタイム」は、確かな手立ての一つです。互見授業によって、その進め方がよくわかりました。また、その効果もよくわかりました。各学級で計画的に進めてください。

まずは、自分の学級で実践することです。

ルールや決まりをつくり、それを全員ができるようにすることも、集団づくりに有効に働きます。左下の写真のように、脱いだ服を、「たたんで、机の上に置く」ことが徹底すると、集団に斉一性が生まれます。



脱いだ洋服の「きまり」

「あ・は・は」(森信三氏の 躰の三原則)

「あ・は・は」とは、「あいさつをする」「はい、という返事をする」「はきものをそろえる（椅子を机に入れる）」を表しています。森 信三氏（もり のぶそう。教育哲学者）は、この3つをしつけの三原則と呼んでいます。

しつけは、押しつけではありません。人として、また、集団を構成する一員としての「型」であり「道徳」です。集団をつくる上で、個人に備わっていないなければならない資質・能力です。集団づくりのレディネスと考えられるものです。

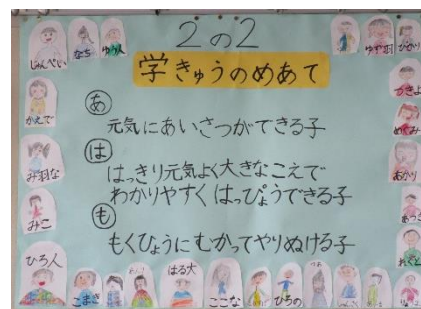
集団に欠かせないのは「規律」です。一人一人を高い次元に揃えることは、集団としての力になります。集団が、個をさらに高めることにつながります（個と集団の相互作用）。

クラス(集団)の一員としての自覚を高めましょう



紅白帽子と姿勢が揃っています

子ども達が学級目標をつくり、目標達成のために子ども達が話し合い、活動する中で、クラスの一員としての自覚を高め、集団の教育力も高まる



各学級の目標

目標にせまれるように！
達成できるように！！

